

すべての輝く女性の明日のために

JAUW会報

第249号
2013年7月



一般社団法人
大学女性協会



Photo by Irene Gashu

第2回定時会員総会 名鉄グランドホテル「柏の間」 2013年5月19日(日)

もくじ

〈第2回定時会員総会特集〉

阿部会長あいさつ.....	2	IFUW	8
総会議事録・講演.....	3	CSW57参加報告	9
報告及び懇談・伊勢研修旅行.....	4	支部だより 北から～南から.....	10
事業紹介.....	5	国際奨学生報告会・求道会館音楽会.....	11
守田科学研究奨励賞贈呈式報告.....	6	2013年 JAUW 全国セミナーのご案内 ...	12
受賞者研究論文概要.....	7	2013年度国内奨学生募集のご案内 ほか	

新しい『JAUW会報』の発刊に寄せて

会 長 阿部 幸子



掛井五郎個展会場にて

一般社団法人に移行してから2年目を迎え、本号からは、従来のタブロイド判に変えてA4判、12ページの冊子体の会報に刷新いたしました。内容的にはこれまでの記事内容を引継いでおり、まだまだ新タイプでの編集が十分に機能していないとは思いますが、会員の皆様の温かいご支援とご協力をいただきながら、1年かけて、JAUWの広報誌として育てていきたいものと思っております。

この新しい会報の発行までに、1年余りかけて検討を重ね、とりわけ昨年の会報では、担当理事、委員長、編集委員の皆様が、毎号、紙面構成を工夫されて、新会報への移行に向けての準備を行ってきました。これまでも本部関係の活動内容が紙面の大部分を占めてはいましたが、前号までの4号には、新しい企画として事業紹介欄を設け、新体制になってからの継続事業（事業1から事業4まで）について各事業の位置づけが分るような解説記事を掲載しました。本号では、その続きとして「その他事業」の中で新しく実施している事業委員会による収益を目的とする事業について掲載しています。一般社団法人とはいえ、移行法人として社団法人時代の資産を減らしながら継続事業を行っているため、これから先の法人を維持するためには新たな資産を作ることが大きな課題となっています。この事業をしっかりと根付かせるためにも、是非とも会員の皆様にご理解いただき、ご協力をいただきたいと思います。

支部のページも新しくなりました。北から南からと題した新企画です。支部独自の事業活動も活発に行われていますが、会員の皆様にお伝えする場があまりないのが実情で

す。紙面の都合もあるかもしれませんが、今後は支部の事業紹介や、支部会員からの発信なども加えることができれば、会員の皆様に会報をより身近なものとして受け止めていただけることでしょう。

本号6～7ページには、守田科学研究奨励賞贈呈式の記事が掲載されています。今回で第15回を迎え、これまでに30名の若手女性研究者の方々にこの賞を贈呈してきたこととなります。贈呈式当日には、都内の別の会場で50歳未満の女性科学者を対象とする猿橋賞の授賞式が行われていましたが、今年度は第7回守田奨励賞を受けられた肥山詠美子氏が受賞されました。このように、これまでの受賞者の皆様は、さらに研鑽を積み、業績を上げられると同時に、女性科学者の研究環境改善に力を尽くし、後進の指導にあたっておられます。

贈呈式、受賞講演に続く祝賀会では、この事業の立ち上げに携わられた丸山庸子元会長からの女性研究者の育成にける情熱のこもったメッセージ、お2人の受賞者からの淡々と語られる力強いご挨拶のひと言一言に、参加者はともに胸を熱くしたひと時でした。そして、もっと多くの会員とこの感激を分かち合いたいと思ったことでした。

申すまでもなく、JAUWの目的は「女性の教育向上及び男女共同参画社会の推進」であり、同時に目的を同じくするIFUWの加盟団体としての活動があります。しかし、事業の内容が多岐にわたるため、説明しにくく、分りにくいという声もよく聞きます。会報では、事業内容の「見える化」を図りつつ編集企画を行っていきたいと考えています。

IFUW とのかかわりは、見えにくいものの1つであったかも知れません。そこで情報伝達の在り方を見直し、従来の別刷配布の形であった“国際委員会だより”を会報に取り込み、昨年からIFUW 関連のページを設けています。今年の8月には3年に1度のIFUW 総会がイスタンブールで開催されますが、100年近い歴史を刻む今、抜本的な改革案が提案され、検討を迫られています。

私どもの法人は、国の法律改正を受けて大きな改革をしましたが、これからも常に組織を見直し、改善していく努力が必要でしょう。“変えてはならないものと、変えるべきもの”とを冷静に見分けつつ、皆様と共に歩んでいきたいと念じています。

第2回定時会員総会議事抄録

日時：2013年5月19日（日）9：00～11：00

場所：名鉄グランドホテル「柏の間」（名古屋市中村区）

1. 総会成立確認：田辺総務理事より、2013年5月19日、午前9時現在の出席者数141名、議決権行使書提出者数501名、出席者合計642名を報告。正会員994名の過半数498名以上の出席により、総会成立を確認。

2. 開会の辞：逝去会員7名の冥福を祈って、一同起立、黙祷に次いで、阿部会長より開会の挨拶があった。

3. 議長選出：定款に基づき、阿部会長が議長となる。
（書記：縄田眞紀子・桑折美子）

3. 議 事：

第1号議案 貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認に関する件：柏木理事より、議案書に基づき貸借対照表、正

味財産増減計算書、財務諸表に対する注記について説明。続いて野瀬監事より、業務及び会計監査の報告があったのち、議長が同議案の承認を諮り、異議なく承認可決された。
第2号議案 理事1名選任の件：牧島副会長より、議案書に基づき、「理事候補者 穂田信子（CIR）の選任」について提案、この議案に全員賛成し、穂田信子CIRは理事に選任された。

第3号議案 賛助会員会費改正の件：牧島副会長より、賛助会員会費を現行の年額6,000円から一口3,000円に変更する改正案について説明、審議の結果、承認可決された。

報告事項：1. 2012年度事業報告、2. 公益目的支出計画実施報告及び監査報告、3. 2013年度事業計画及び予算以上の報告について、各担当理事から説明、監査については大森監事からの報告があった。

緊急動議：動議「日本維新の会共同代表 橋下徹大阪市長の発言（2013年5月13日）に対する抗議文を理事会において検討する」が採択され、承認可決された。

4. その他：議事終了後、次期総会は本部主催で5月17、18日に都市センターホテルで開催することが決定した。

第67回国連総会 第3委員会に出席して

鷲見 八重子

毎年9月末からNY国連本部で開催される国連総会は議案採択まで含めると12月まで3か月近くに及びますが、私は会期の中間部にあたる10月8日から11月8日まで政府代表顧問（国連 NGO 国内婦人委員会推薦）として第3委員会に出席しました。総会を補佐する6つの委員会が同時並行して開かれている中で第3委員会は経済社会理事会の傘下にある「社会・人道・文化」にかかわる諸問題を討議する場であり、毎年10項目の議案が審議されます。

会議は議案ごとに国連各部署からの議案紹介ステートメントが3～4件なされ、活発な質疑応答があり、続いて各国から最近の進捗状況の報告、今後取り組むべき課題、良き事例などについて発表があります。開発途上国にとっては、自国の苦しい状況を訴え、国連の支援を要請するチャンスでもあります。紛争下にある国々は、当然ながら自国を正当化して敵対国を非難し、非難に対しては「答弁権」が認められ両国間の応酬がありますが、客観的に見ればどちらの言い分にも一理あり、紛争は武力では真の解決をみないことは明らかです。

今年の国連のテーマは「女性と女兒に対するあらゆる形態の暴力の根絶と防止」ですから、「女性の地位向上」と

「子どもの権利の促進・保護」の議案には国連加盟193か国中、半数を超える国が熱心にステートメントを読みました。「世界の女性の7割がその生涯において何らかの暴力を体験している」という指摘からも女性のエンパワメントとジェンダー平等が喫緊の課題であることがわかります。こうした社会背景から「国際ガールズ・デイ」（10月11日）が創設され、記念日のハイレベルパネルでは、女性と女兒の人権を守るために国際社会は一致協力して教育、法の制定、意識改革に取り組むことが求められ、期せずして「そうだ、頑張ろう」の声が挙がり満場一致の歓声と拍手でした。

第3委員会の代表席に座っていると世界の構図と日本の立場、そして私たち NGO が成すべきことが見えてくるから不思議です。 一会員総会講演から一



講演をする鷲見八重子会員

報告及び懇談

総会終了後、午後の部で「報告及び懇談」があり、開催支部長の挨拶と閉会の辞で幕を閉じた。

- (1) UWA 2012総会、IFUW イスタンブール総会について
穂田 CIR より、2012年11月16日～18日にバンコクで開催された UWA2012総会と、スリランカ大学女性協会訪問についての報告。今年開催の IFUW イスタンブール総会の説明。

- (2) 委員会・支部の活動について 各委員長・各支部長
①女性の地位、教育、国内奨学、社会福祉、科学研究奨励、人材育成、文化交流、国内NGO、広報、情報、事業、会員の各委員会委員長より委員会活動についての報告。
守田科学研究奨励賞第11回受賞者唯美津木博士と第13回受賞者島田緑博士をゲストとして迎え、近況報告を頂いた。
②出席各支部長より支部活動についての報告。
- (3) 意見交換
①本協会の目的の再確認、活性化について
②全国セミナー一般参加費について

全国総会・第2回定時会員総会 開催報告

愛知支部長 寺田 純子



挨拶をする寺田純子愛知支部長

2013年度の全国総会は、名古屋での開催となりました。5月18日の支部長会と懇親会、19日の定時会員総会は名古屋駅隣接の名鉄グランドホテルで行われ、また20日の研修旅行は伊勢神宮でした。いずれも大過なく終えることが出来ました。

これも一重に皆さまのご協力の御蔭と、支部会員一同深く感謝しております。

支部長会では、全国21支部と役員13名が集まり、各実施事業の収支、賛助会員、支部と本部との連携など、具体的な問題について、活発な質疑応答がなされました。続く懇親会では119名の参加者を得て、加藤いつみ愛知支部会員と客員参加の高橋美智子さまによるオカリナの演奏があり、東北の復興を願い皆で、『花は咲く』を合唱して、ご好評を得ました。19日の第2回定時会員総会には、154名が参加され、3議題のすべてを賛成多数で可決し、無事に終えることができました。続いて、今回は鷺見八重子理事の興味ある国連総会第3委員会報告に耳を傾けました。

午後の懇談会では、穂田信子理事のUWA報告等につき、各委員会、各支部から沢山の事項が報告されました。

最終日は天候にも恵まれ、今年式年遷宮を迎える伊勢神宮で、新緑に包まれた外宮、内宮を参拝しました。

3日間に亘り、有意義な時間を共有し、互いの親交を温めることができました。総会で得られたことを踏まえて、各支部が、今年度の活動を進められることと思います。

伊勢神宮研修旅行

愛知支部 河合 憲子

本年は伊勢神宮の式年遷宮と出雲大社の遷宮が60年ぶりに重なり、これは鎌倉時代以降わずか5回しかないという歴史的にみて貴重な年である。伊勢神宮は常に生き生きとしたみずみずしい「常若」の思想で社殿・御装束神宝、全て新調する。出雲大社は古い所を修造する「蘇り」の思想で、今回は檜皮ふき屋根のふき替えが行われた。

先ず衣食住を司る豊受大神宮を拝し、亀石を渡り、風宮、土宮、多賀宮へ詣でる。勾玉池畔の遷宮館に集合し学芸員の説明を受ける。伊勢神宮は皇室の祖神とされているが米作りを中心とした年間行事は千数百回、末社百二十五社。毎日皇室と日本国家と国民の安寧・繁栄を祈願している様子が展示よりよくわかる。

遷宮行事とその模型、神宝とその作成課程、地下から2階にかけての下宮正殿 $\frac{1}{4}$ 原寸大の展示、白木の檜の清浄で神々しい美しさにブルノートアウトが賞賛した日本の美を感じる。2階からは紫のかきつばた咲く勾玉池と神宮の森が一幅の絵となっていた。てこね寿司の昼食後、宇治橋を渡ると神域、背筋もピンと伸び、神々の息吹を感じる。案内人の説明で、さざれ石、大正天皇お手植松。五十鈴川で手を净め天照大神を祀る内宮正殿へ。苔むした正殿は簡素で趣あり、シンプルで美しい。天照大神の荒御魂を祀る荒祭宮、子安神社参拝後、おはらい町、おかげ横丁を散策し、5時名古屋着。会員の皆さまは清々しいお顔で帰途に着かれた。



感動した伊勢神宮

事業紹介

会員事業紹介

牧島 悠美子

事業委員会と会員委員会は JAUW の事業資金の調達という財務的な仕事や会員情報の把握という事務的な仕事を担っており、総務担当副会長が担当理事となっています。事業委員会はバザー、観劇、コンサート、講座、新春のつ

どいなど5つのグループに分かれ、主に JAUW の資産形成のために、会員が協力しやすい企画を考え実施しています。会員委員会は入退会、住所などの変更、年会費の把握など細かい縁の下の仕事で、各支部との連携が欠かせません。

事業委員会

委員長 加藤 恭子

JAUW が一般社団法人として認可され、2012年4月より新しい歩みを始めるにともない事業委員会が新しく発足しました。その活動は5つのグループに分かれ、それぞれ収益事業を行い、JAUW の運営に貢献しています。鋭意工夫して楽しい企画を心がけますので、皆さまの参加・協力を心からお願いいたします。

〈A グループ〉

藤谷 文子

事業委員会Aグループは各種バザー、及び会員間の親睦を図るための行事を行います。

1. 総会及び事務所におけるバザー
2. “Made in Occupied Japan 展” 開催 10月5日
3. “防衛省見学” 先着50名 11月8日予定
4. “楽しい街歩き” NPO団体所属の講師つき散策とランチ
5. “ランプの会” 年2回開催（有志によるゴルフコンペ）

〈B グループ〉

齊藤 智恵

B グループは、主に日本の古典芸能の歌舞伎、能、狂言、雅楽等を会員に紹介、鑑賞のお誘いをしております。7/7には雅楽を鑑賞、秋以降も文楽、歌舞伎等を予定しています。今後の予定 9/13 文楽は「伊賀越道中第一、二部」の通し能、狂言 9/17 能「鶴亀、羽衣」狂言「庵の梅」能「石橋」国立能楽堂の記念講演。歌舞伎 10/7 「一の谷嫩軍記」熊谷陣屋 他となっています。問い合わせは JAUW 事務所まで。

〈C グループ〉

鷲見 八重子

年に2回 JAUW らしいコンサートを企画します。初夏のコンサートは6月15日（土）本郷の求道会館。「涼やかな風のように～フルートとピアノの情景～」第2部の女性作曲家3人の作品がとくに好評でした。今回はテノールとピアノの饗宴です。乞うご期待。

「クリスマスコンサート ～オペラとアリアの名曲から～」
（日時：2013年11月27日（水）14：30開演 けやきホール）

〈D グループ〉

大森 たへ子

D グループは単独または委員会や支部と共催で会員の活動にプラスになるような研修（見学）講演会等を行います。

参考までに：4月に国際委員会共催で IFUW 総会にむけてトルコに関する研修会をしました。

* 9月28日（土）茨城支部共催

頭脳の集積都市、研究の先端をいく筑波見学・研修および交流会準備中。

〈E グループ〉

中山 正子

E グループは新春のつどい、支部交流・親睦旅行などを担当。

「新春のつどい」

2014年1月11日（土）11時～14時30分

新宿京王プラザホテルで開催予定。



小石川植物園にて



会員委員会

委員長 秋月 薫

会員委員会は、大学女性協会の会員の皆様の名簿の管理を行っております。支部のご協力によりご連絡いただきました資料を基に、PC に入力、カード、名簿の整理を毎月定例委員会で行っています。プライバシー保護のため現在、会員名簿の発行をしておりません。PC の導入は、1997年に、最後の会員名簿を発行する時に行いました。本部から皆様へ会報、その他資料の配布は、タックシールを使用し、仕事が簡略になりました。傘寿、米寿、卒寿、90歳以上の方には、毎年お祝いのハガキを委員会で作成し、お出ししています。そのハガキを紹介させていただきます。

守田科学研究奨励賞贈呈式



阿部会長（中央）と両受賞者を囲む関係者

5月25日（土）アルカディア市ヶ谷会館において第15回守田科学研究奨励賞の贈呈式、その後引き続き受賞パーティが開催された。受賞者は、大矢根綾子博士（材料化学）と関口仁子博士（原子核物理学）です。

大矢根綾子博士は、1997年京都大学工学部工業化学科を卒業後、引き続き大学院に進まれ2002年同大学大学院工学研究科博士後期課程材料化学専攻を修了と同時に博士（工学）の学位を授与された。2002年独立行政法人産業技術総合研究所の研究員として採用され、2009年に主任研究員となられた。現在、同研究所のナノシステム研究部門ソフトデバイスグループに所属している。これまで、材料化学の分野で活躍され、バイオミネラライゼーションの科学において目覚ましい研究をされてきた。

関口仁子博士は、1997年東京大学理学部物理学科を卒業後、同大学院に進まれ、2002年同大学大学院理学系研究科物理学専攻を修了、同時に博士（理学）を取得された。その後、理化学研究所 基礎科学特別研究員、協力研究員、仁科センター研究員を歴任され、2010年現在の東北大学大学院理科学研究科准教授となられた。その間、一貫して原子核の核子間三体力の実験的研究に取り組んでこられた。阿部幸子会長は挨拶の中で、今年で30名の受賞者を輩出し、2004年に受賞された肥山詠美子博士が今年度の猿橋賞を受賞されたこと、また、5月19日に名古屋で開催された総会には、2008年度受賞者の唯美津木博士と2010年度受賞者の島田緑博士が出席され、現状報告されたことが紹介された。賞の授与に引き続き両博士の受賞講演が行われた。大矢根博士は、ヒトの歯や骨の主要無機成分である水酸アパタイトを基礎とし、成膜技術への発展と応用研究についてお話をされ、関口博士は、核子間三体力を老子の言葉を通して分かりやすくお話し下さった。祝賀会にはご家族にも出席いただき、終始なごやかな雰囲気、参加者皆が楽しく親交を深めることができた。

科学研究奨励委員長 今野 美智子



和やかな両受賞者への花束贈呈

第16回 大学女性協会守田科学研究奨励賞 受賞候補者募集要項

- 趣 旨：** 本賞は、化学教育者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として、1998年に設けられたものです。
- 対 象：** 自然科学分野において、優れた研究成果をあげており、科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（2014年4月1日現在）の女性科学者を対象とします。
- 授賞件数：** 年 2件 以内
賞状および副賞50万円を贈呈します。

提出書類*

1. 研究題目とその概要、今後の展望および抱負（A4判2頁以内）
2. 推薦状（厳封）
3. 履歴書
記載項目：氏名（ふりがな）、（英字表記）、国籍、生年月日（年齢）、現住所・電話、所属機関（住所、電話、FAX、e-mail）・職名、（連絡先に○）、専門分野、学歴（高校卒から）、学位、職歴、賞罰
4. 研究業績リスト（主要な論文は○を付記）
記載項目：原著論文（査読付）、原著論文（査読なし）、総説・その他、著書、受賞歴、学会発表（国際学会、国内学会（招待のみ））、競争的資金
5. 主要な論文5編以内の別刷り

*返却いたしません。1. 3. 4. は各15部、2. は1通、5. 論文別刷り（コピーでも可）は各3部提出のこと。

応募締切日：2013年11月22日（金）（必着）

選考結果の通知：2014年3月中

書類送付先・連絡先：一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101

Tel：03-3358-2882 Fax：03-3358-2889

http://www.jauw.org e-mail：jauw@jauw.org

錦松梅

東京都新宿区四谷3-7
TEL 0120-03-4837
http://www.kinshobai.co.jp

バイオミネラリゼーションの科学と医療応用

独立行政法人産業技術総合研究所 主任研究員

大矢根 綾子



ヒトの骨は、コラーゲン線維の表面に水酸アパタイト結晶が析出し、これが三次元的に編みあがった複合体である。私たちは、体液環境下におけるアパタイトの成長単元が直径約0.8nm のリン酸カル

シウム (CaP) クラスターであるとする伊藤ら(産総研)のクラスター成長モデルに基づき、種々の擬似体液(体液に類似のCaP過飽和溶液)中のイオンの存在状態を追究した。その結果、従来の世界標準であった擬似体液中でもCaPクラスターが存在することを明らかにするとともに、体液により近い組成を有する新規の擬似体液を提案した。次に私たちは、種々の表面修飾を施した材料と擬似体液を用いて、アパタイトの析出反応(バイオミネラリゼーション)における固液界面反応を基礎的に追及した。その結果、高分子材料表面に導入された官能基の種類、密度、配列、ならびに材料表面からのカルシウムイオンの溶出速度によって、アパタイトの核形成・結晶成長を速度論的に制御できることを明らかにした。また、バイオミネラリゼーションの初期過程で形成されるアモルファスCaPを、ナノ粒子として人工材料の表面に析出・固定化する表面修飾技術確立した。この表面修飾技術を利用することによって、ガラス粒子やゾルゲル反応を利用した従来のバイオミネラリゼーション法よりも迅速かつ簡便に、種々の材料基材の表面にアパタイトを成膜できるようになった。この新規の成膜法は、石灰化を含む動脈完全閉塞動物モデル(治療技術の開発や訓練に有用)の構築や、骨組織再生用足場材料の作製などに活用されてきた(前者はStanford大医学部、後者はOxford大医学部との共同研究)。さらに私たちは、材料表面におけるバイオミネラリゼーション過程で、アパタイト膜に生体機能分子(タンパク質、抗菌剤、抗体、DNA など)を効率よく担持させる条件を明らかにした。この機能分子—アパタイトナノ複合膜を利用して、安全で高効率な遺伝子導入用基材、細菌感染にくい経皮デバイス(皮膚を貫通して使用される医療用具)、骨組織と早期に癒合する人工骨といった、高機能バイオメディカル材料を創製してきた(主に筑波大医学部との共同研究)。これらの材料は、遺伝子治療や再生医療などの先端医療における活躍が期待されている。

少数核子系散乱の高精度測定による核子間三体力の研究

東北大学大学院理学研究科物理学専攻 准教授

関口 仁子



原子核は数多くの核子と呼ばれる粒子によって構成されている。これらの核子は1兆分の1センチメートル立方程度の非常に狭い空間に閉じ込められている。核子同士を結びつける力を核力と呼ぶ。核力は、1934年に湯川秀樹によっ

て提唱され、二つ核子の間を中間子という粒子を交換することによって説明される二体力として考えられてきた(湯川は、この業績により後にノーベル物理学賞を受賞)。その一方、原子核では、その密集性から、3つの核子が同時に作用することによって引き起こされる三体力(三体核力)の存在も、ほぼ同時期から議論されてきた。

三体力の実験的検証は難しい。その理由は、三体力の効果は極めて小さく、二体力の効果によって隠されてしまうからである。三体力の検証には、3つの条件が整う必要がある。1つ目は二体力の完成、2つ目は3つの核子で構成される系を厳密に計算するファデーエフ理論計算の確立、3つ目は理論計算との比較に耐えうる超高精度の実験である。この条件が見事に揃ったのが、1990年代後半である。当時、約4000点の実験データを再現する二体力が完成し、かつファデーエフ理論計算が実現可能となった。3つ目の条件に貢献する形となったのが、私たちの実験である。三体力の効果を見つける事を目的として、理化学研究所(理研)の加速器施設(現、理研RIビームファクトリー)において入射核子のエネルギーが135メガ電子ボルトの重陽子—陽子弾性散乱の散乱断面積の測定を実施した。この実験の特徴は得られた実験値の精度である。私は測定の工夫を行う事で系統誤差2%以下を実現し、ファデーエフ理論計算との比較から、三体力の検証に成功した。また、難度の高いスピン偏極実験も実現し、様々なスピン観測量を系統的に測定する事で、三体力のダイナミクスを明らかにする研究を進めている。

近年三体力(三体核力)は、原子核構造の記述、高密度領域の核物質の状態方程式、最大規模の原子核と考えられている中性子星の性質の解明に於いても重要な役割を果たすと予測されている。三体力の定量的な議論を初めて行った本研究が原子核物理学分野に与えた影響は大きく、三体力研究をより具体的、現実的なものへと進展させることとなった。

第31回 IFUW 総会迫る

イスタンブール
8月16～21日

CIR 穂田 信子

この会報が出る頃には、イスタンブール総会まであとひと月。東西融合の地を自認するトルコでの協会初の開催です。JAUWからは阿部会長はじめ約20名の参加が見込まれています。5名編成の日本代議員団は副代議員と交代しながら会期中合計5回の本会議をこなします。また、19日には旦まゆみ国際委員長、岡部佳世、廣田輝子両会員がニュージーランド会員と共催のワークショップを実施する予定です。この第31回総会のキーワードは、持続可能性（サステナビリティ）と暴力。私たち女性と教育がそれらにどう向き合うべきかが議論されます。

12本の決議案のテーマは幅広く、強制的な結婚や近親姦からの子どもの権利・人権の保護、アフガニスタン・パキスタン等での安全な教育アクセス確保、DV対策としての男女平等意識の向上・法整備、先住民教育、買春・売春に対する法整備、国連年次総会公式代表団への女性参画などの懸案のほかにも、agenda sensitivity 概念導入による人身取引の阻止、非国家アクターによる拷問（制裁）禁止、非武装文民による平和維持活動を通じた紛争地での女性と子どもの保護、金融グローバリゼーションの弊害阻止といった、読み解くのが難しい新しいアイディアも出されています。国際委員会では先の登録案内に続き12案すべてを和訳し、5月19日に検討会を開いて内容の理解と周知に努めました。参加・協力して下さった会員諸姉にこの場をお借りして感謝いたします。

さらに事務局を拡大強化するか、その業務を外部委託するかという大きな決断が迫られています。世界から集まる各国連盟・協会がともに IFUW の将来像をしっかりと結べるかが東西融和のシンボル都市で問われる総会となります。

トルコと JAUW

10年ほど前までJAUWは、ビーナ・ロイという元IFUW会長の名を冠した事業（正式名称：Bena Roy Partners in Development）を通じてトルコのアンタリアにある町の図書館整備を支援していた。2004年6月のこと現地で事業を推進する支部長のサダンさんから連絡があり本部で交歓のときを持った。田中会長の時には、古都コンヤから食育の研究に来日したウヌサンさんが訪問された。トルコでも「ショックイク」に関心が持たれていたようだ。そして2008年には国際奨学生ゼレイクさんを招くことができた。マラリア予防の研究で祖国に尽くせて嬉しいと、ふたりのお子を夫君に託しての来日だった。（文責 穂田 信子）

JAUW ワークショップ開催決定 国際委員長 旦 まゆみ

ニュージーランドの大学女性連盟NZFGW との共同ワークショップは、“Case studies illustrating the distinctive traits women bring to leadership in different societies”「さまざまな社会において女性がリーダーシップを発揮している際立った事例から学ぶ」のテーマのもと、女性リーダーシップの成功事例を紹介し、多様な文化的背景の中から共通点を見つけることを目的としています。参加者にはグループ・ディスカッションに加わってもらい、女性のためのリーダーシップ研修に使うことができる主要な要素をまとめたいと考えています。

コーディネーター：旦まゆみ

発表者：Pushpa Wood (NZFGW) 岡部佳世 廣田輝子

トルコ文化センター訪問 東京支部 内野 雅子

4月22日に、代々木上原にある「トルコ文化センター」を訪問しました。

今年8月16日～21日に、第31回IFUWイスタンブール総会が開催されるということもあり、大勢の参加でした。トルコ文化センターの建物は、トルコから材料を取り寄せ、トルコの職人を招聘して造られたそうです。モスクに入る時は全員がスカーフを被って説明を聞きましたので、トルコにいるような錯覚を覚えました。見学している間にもイスラム教信者の方が礼拝にいらしていました。また、女性の文化広報参事官の方が、トルコの女性のことをスライドで映しながら講演してくださいました。最後に、トルコの紅茶を伝統的な容器に入れて出してくださり、トルコ独特のお菓子と一緒にご馳走になりました。皆、満足顔でした。



モスクの入口で
説明を聞く



モスクの内部

人材育成事業の成果と可能性

人材育成委員会委員長 青木 怜子

人材育成委員会では、女性の国際会議への参加体験を助成し、国際社会に発信できる女性の育成に向けて支援事業を行っています。国際会議体験の場は、現在では国際大学女性連盟（IFUW）の総会、アジア大学女性連盟（UWA）の総会、国連婦人の地位委員会（CSW）の3つの会議ですが、今回、第57回 CSW には、JAUW の城倉純子理事と、一般募集に応募された一橋大学大学院院生・田中麻子さんの参加を支援いたしました。両者共に今期会議のメインテーマである「女性に対する暴力の防止」問題のスペシャリストです。すでにこの分野では実績のあるお2人ですが、国際会議で実際に会得した新たな体験が、夫々の活動に反映され、社会的還元に向けて一層邁進される機となるように期待します。

CSW57ワークショップ報告

城倉 純子

57回目を迎える「国連婦人の地位委員会（CSW）」とNGO CSWは、女性と女兒に対する暴力の根絶をテーマに、2013年3月3日より13日間に亘り開催され、私はサイドイベント（政府との共催）ワークショップの中で、「日本におけるデートDVの深刻な現状と対策」とのテーマで報告発表しました。会場の国連本部NLB 2階会議室は、31か国約110人の参加者で満員でした。

茨城支部でのデートDV実態調査からのデータ（女子の5人にひとりが10代で被害を経験・女子の被害は深刻な現状）を報告、啓発活動の重要性や、日本の現状（たとえばDV防止法による被害者保護は改正を重ね充実したが加害者対応は法的不備により事実上野放しの状態、刑事告訴が困難な現実、デートDVはストーカー法での取り締まりなので不十分）などを報告、先進国で日本だけが「加害者更生プログラム」がいまだ法制化されていない、法制化が喫緊の課題である現状を訴えました。

全体として男性の参加が比較的多く、男性目線の政治や法案を崩していくために男性も活動する必要がある、と男性側からの宣言があったのは感動的でした。また、若い女性と少女達によるパレレルイベント“Changing System that Hurt…”では、21歳女性が、私の10代は両親のDVに覆われていたという体験を通しDV防止を訴え、スタンディング・オベーションを受け印象的でした。国際集会の大いなる意義を感じました。NGO CSWの運営は、スタッフ採用の民族間バランスが取れ、アフリカや韓国勢がパワフルでした。日本政府とのブリーフィングでは、NGOリーダー達から高い見識を伺わせる質問が飛び交いました。「女



若年層におけるDV被害を報告

性への暴力はジェンダーに根ざしている」が会議のキーワードであったと思います。

CSW57に参加して

田中 麻子

今回のCSWでは、「女性及び女兒に対するあらゆる形態の暴力の撤廃及び防止」が主要テーマとして掲げられ、UN Womenをはじめとする国連職員、世界各国から集ったNGO関係者の濃厚な議論に触れることができました。

私は、自身の活動や研究内容に関する分野、特に性暴力や買春を中心とした会議に参加しました。最先端の研究報告や最先端の技術を使った支援の試みなど、開眼される情報を得られることが多く、また、社会をより良いものにしようという参加者の熱意に心打たれるばかりでした。

その一方で、国の情勢や制度、資金・人材不足などを理由とした現場の苦難も聞かれ、国ごとの経済格差やジェンダー意識格差を目の当たりにしました。ジェンダー平等が日本より幾分なりとも達成されている国の報告を聞くと、羨望と悔しさも残りましたし、その格差をクリアしながら世界が協働していくことの難しさも感じました。

しかし、全体を通して、自分の国を良くしていくという強い意志を持った人たちが世界中から集い、情報や意見を交換し合う場に参加でき、そのパワーに圧倒され、私の活動や研究に対する意識もより強いものになりました。

また、普段はあまり会う機会のない国内からの参加者と意見交換ができたことも有意義でした。同じ志を持った方々との出会いに勇気づけられましたし、ここで得たことをしっかりと日本に持ち帰り、社会に還元することの責任と期待も抱きました。

国際会議という場や空気に触れたことで、日常の活動において、世界中の顔を思い浮かべることができるようになったことは貴重な財産であり、このような機会をいただけたことを感謝しています。



日本の参加者とともに

支部だより

北から～南から

楽しい支部活動をめざして

札幌支部長 加藤 好江

Q 最近の支部の活動は？

A 札幌支部は例会と公開講座を中心に活動しています。昨年度の例会は、団体鑑賞の特典である学芸員の解説付きの大原美術館展の鑑賞、ここ数年続けている読書会は、新しい訳のフランソワーズ・サガン「悲しみよこんにちは」、会員が講師をつとめた講演会「アナマリアさんの見た戦後の日本女性の移り変わり」でした。また、自然・文化・歴史を訪ねる会では、初めて貸切バスで、大人の遠足・ブルーベリー摘みをしました。いずれの会も会員外の人も誘い、賑やかに充実した時間を持つことが出来ました。公開講座は、俳句同好会、パステル画の会、英文雑誌を読む会があり各々月1回開いています。俳句同好会は合同句集「出逢ひ」を3号まで発行し、パステル画の会は今年度三回目の作品展を開く予定で、日頃の成果を発表しています。英文雑誌を読む会は、TIME等を講師を招かず出席者全員が知恵を出し合って読み進めます。予習は学生時代の猛勉強さながらとはいえ、読み終えたあとの充実感是他では得られないと好評です。読んでいる記事の一端はHPで紹介しています。なお、HPは年3回更新し、ミニ・ニュースも年3回発行しています。昨年から札幌支部奨学生制度を始めました。ささやかながら若い研究者への応援です。第1号の奨学生を今年の新年会にお招きし楽しいひとときを過ごしました。

Q ご当地自慢・支部自慢は？

A 豊かで雄大な大地の北海道ですが、人口190万の大都市札幌も大自然に包まれています。その恩恵を享受しつつ、「楽しい札幌支部」を身上に、忌憚の無い意見を交換し、力を合わせて会をすすめているアットホームな支部です。

Q これから力を入れていきたいことは？

A 会員増につながる楽しい支部活動です。



札幌市近郊のブルーベリー果樹園にて

おいでんせー岡山に！

岡山支部長 杉村 洋子

Q 最近の支部の活動は？

A 岡山は国連大学から世界で最初に RCE (Regional Centre of Expertise on ESD) に認定されたまちです。来年は「国連ESD (持続可能な開発のための教育) の10年」の最終年を迎え、岡山でも世界会議が開かれます。

持続可能な社会とは『貧困、人口 健康、食糧の確保、人権、世界平和、教育、ジェンダー』などの問題を解決し、次世代へ「持続可能な社会」をつなぐことです。JAUW の活動に通ずるものであり、会員も「ESD-J全国ミーティング2013 in 岡山」に16人が参加し議論に加わりました。公平な社会を支える人材づくりに貢献したいと考えています。

Q ご当地自慢・支部自慢は？

A 岡山は、5の同好会活動、先端技術の見学会会員相互の勉強会、市民協働事業など、活発な支部活動と多様な議論がなされている、活気ある支部です。また、今年、第30回を迎える「外国人による日本語弁論大会」は岡山在住の外国人の方々の教育に役立ててきました。国際平和と国際理解に向けて、さらに発展をさせたいと思います。

Q これから力を入れていきたいことは？

A 2013年10月26日から岡山において、全国セミナーが開催されます。岡山の誇る大原美術館、理事長大原健一郎氏による講演、パネルディスカッションなど予定しています。瀬戸内海の美味しいお魚や、島めぐりなどのエクスカージョンにも満足していただけるよう、支部会員一同、頑張りたいと思います。



第29回 外国人による日本語弁論大会にて

国際奨学生報告会

ナランハジット・ミヤダグスレンさん（モンゴル）
エレナ・ギナチュリナさん（ウズベキスタン）

2013.3.16
アルカディア市ヶ谷

3月16日、アルカディア市ヶ谷で、昨年度2人の国際奨学生エレナ・ギナチュリナさんとナランハジット・ミヤダグスレン（愛称ナラ）さんの研修・研究報告会が行われた。

エレナさんは「オオミジンコと蛍光マイクロビーズを使った急性バイオアッセイの開発」と題して、水質浄化の最新技術修得をめざした今回のバイオアッセイ法の研修と研究の成果を報告した。水資源の毒性試験にはオオミジンコと蛍光マイクロビーズを使用する迅速バイオアッセイが効果的であるというのが報告の大筋だった。この研修は母国ウズベキスタンの深刻な水不足を強く意識して取り組まれた。かつては世界三大塩湖の1つだった母国の水源アラル海は1980年代までの20年間の極端な乱開発で水量が84%も減少、湖は消滅、生命の痕跡すら絶えて荒野と化した。その映像をスクリーンで見た聴衆は大きな衝撃を受けた（以上廣田里子記）。

次いでナラさんの研究「モンゴルにおける人畜共通寄生虫症エキノコックスのDNA解析による鑑別診断」の発表が行われた。まず、祖国モンゴルの建国の歴史、風俗、世界でも珍しい遊牧民としての暮らしの様子などが紹介された。続いて、遊牧生活に欠かせないヤギやヒツジと人間に

共通のエキノコックスという臓器を冒す寄生虫疾患の説明に移り、イヌの小腸に成虫が寄生し、糞便とともに排出される虫卵を介し、あるいはイヌを襲ったオオカミを介して動物やヒトに感染する病態や診断方法が紹介された。社会主義体制崩壊後イヌの取締り体制が崩壊して病気の流行が懸念されるのに効果的な診断方法がないなかで、DNA解析による診断方法を学びとった今回の研究成果が本国でのこの疾患への対策の一助となることを期待したい。今回は二人の指導教官が参加して説明の助言をして下さり、聴衆の理解が深まるという好結果も得られた（以上平野和子記）。



国際奨学生報告会

● 求道会館音楽会報告 涼やかな風のように“フルートとピアノの情景”

中山 正子 ●

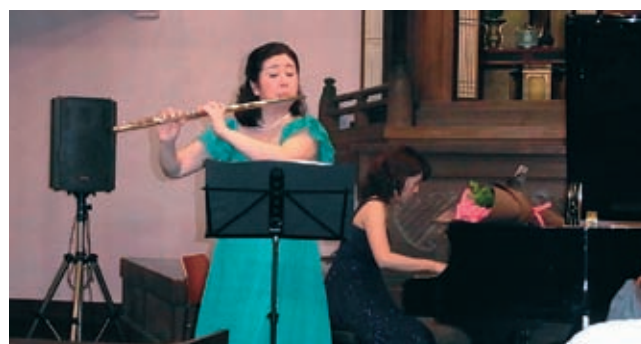
6月15日（土曜日）の午後、東京・本郷の求道会館でフルート・高広幸子さん、ピアノ・野間晴美さんによる JAUW 主催・初夏のコンサートが開催されました。

第1部は鮮やかなエメラルドグリーンのドレスの高広さんのC.P.E. バッハ「フルートソロのためのソナタ」で始まりました。続いて野間さんのピアノが加わってエルガー「愛の挨拶」、フルートを習う人の憧れの曲といわれるビゼー「アルルの女」よりメヌエット、ドビュシー「夢」、ドヴォルザーク「ユーモレスク」、フルートとピアノのために編曲されたドラマチックな「浜辺の歌」、モーツァルト「アンダンテ」など、高広さんの楽しいトークをはさみながら心和む小品9曲が演奏されました。

第2部は女性作曲家シリーズ第二弾として個性的な3人の女性作曲家の曲が集められました。ヴィアルドの6つの小品はどことなくのどかな雰囲気、アリュールのソナチネはちょっと都

会的に、そして有名なシャミナードのフルートとピアノのためのコンチェルティーノはプログラムの最後を飾るのにふさわしくとても素晴らしい演奏でした。ボランティアでお手伝いをお願いした男子学生のふたりから花束贈呈のあと、アンコールにサンサーンスの「白鳥」と父バッハの小曲が演奏され、コンサートは無事終了しました。

フルートは非常に繊細な管楽器で、息の強弱によって高い音や低い音などさまざまな音色を作りながら演奏され、またその日の会場や湿度によっても音が微妙に変わるそうです。求道会館は大正4年に仏教の信仰を説く場として建立されましたが、50年間閉鎖されていたところを東京都有形文化財指定を受けて修復されて平成14年にオープンしました。吹き抜けの会堂に響くフルートの美しい音色に魅せられて、梅雨の晴れ間の心洗われるひとときでした。



11月の音楽会のお知らせ

クリスマスコンサート

～オペラとアリアの名曲から～

シューマン 詩人の恋 ほか
倉石 真 テノール
伊坪 淑子 ピアノ

日 時：2013年11月27日（水）14：30開演
場 所：けやきホール（古賀政男記念博物館）
チケット：4,000円（学生2,000円）

2013年 JAUW 全国セミナーのご案内

テーマ 「男女共同参画社会の形成と教育」
日 時：2013年10月26日（土）・27日（日）
場 所：ピュアリティまきび（岡山市）

☆ 1日目 10月26日（土）

13：00～17：00（受付12：00～）

開会式・報告会 IFUW 第31回イスタンブール総会、委員会、アンケート実施委員会、支部

18：00～20：00 交流会 会員の交流

☆ 2日目 10月27日（日）午前中のみ一般公開

9：30 講演 公益財団法人 大原美術館理事長

大原謙一郎氏 演題 『「文化の力」を考え直す』

10：30～12：30 パネルディスカッション

富岡憲治氏 岡山大学ダイバーシティ推進本部
男女共同参画室長

山下陽子氏 岡山県立倉敷南高等学校長

岩村道子氏 大学女性協会前理事

13：30～15：30 まとめ 15：30 閉会

会 費 3,000円（一般・学生 無料）

申し込み seminar.jauw@gmail.com 又は事務所 Tel・Fax

東日本大震災災害地支援事業2013年度奨学生決定

本年度は20名の応募があり、慎重かつ厳重に審査し、4名を決定いたしました。

宮城県石巻北高等学校・宮城県立気仙沼高等学校・宮城県登米高等学校（各2年生）・宮城県柴田高等学校3年生。

いずれも女子生徒で、成績優秀・日常の生活態度も良好の推薦状が届いておりました。又、当初3年間の募集で500万円の事業として始まりましたが、多くの皆様のご協力で2年延長、700万円の事業に変更となりました。今後も募集生徒の増員・年数の延長に繋がりますよう、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。 特設委員長 高田武子

理事会から

- ▶ 2013年度国際奨学生2名（マレーシア、スロバキア）が決定
- ▶ IFUW イスタンブール総会（8月16日～21日）に派遣する評議員2名、代議員（正・副各5名）を決定
- ▶ HP検討委員会（高田武子委員長）が発足し、リニューアル案の検討を開始。
- ▶ 事務所の夏季休業期間は8月21日（水）～27日（火）

〈訂正とお詫び〉会報248号2ページの一般奨学生氏名上野美貴は上野未貴の誤りでした。

編集後記

初めての冊子形式となります。この1年間は試行錯誤を繰り返して、ようやく発刊にこぎつけました。みなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。

2013年度国内奨学生募集のご案内（募集要項抜粋）

一般社団法人 大学女性協会 2013年度国内奨学生募集要項

I 応募資格

- 一般奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、学業人物ともに優れた者。
- 社会福祉奨学生 文部科学省の認可する大学の学部・大学院に在籍1年以上の女子学生で、身体に障害があり、かつ学業人物ともに優れた者。
- 安井医学奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、医学・歯学・薬学を専攻し、かつ学業人物ともに優れた者。
- *備考
 - ・1大学から各部門1名ずつ応募することができる。
 - ・過去に当協会の奨学金を授与された者は、再度応募することはできない。
 - ・在籍年数に休学期間は含まない。
 - ・社会福祉奨学生は、身体障害者手帳の交付を受けていること。

II 支給額および募集人数

- 一般奨学生 大学院生 20万円 6名
- 社会福祉奨学生 学部生 10万円
- 大学院生 20万円 学部生、大学院生合わせて3名以内
- 安井医学奨学生 大学院生 30万円 1名
- *備考
 - ・応募状況により奨学生人数を変更することがある。
 - ・奨学金は1回限りである。

III 提出書類（ホームページからダウンロードして使用のこと）

- (1) 履歴書（写真貼付）
- (2) 一般社団法人大学女性協会国内奨学生推薦書
 - ・記入者は在籍する大学の学長・学部長・学科長・指導教員のいずれかであること。
 - ・学長氏名・印又は奨学金担当者職名・氏名・印が必要。
- (3) 研究・勉学の内容について
 - ・大学院生は様式A
 - ・学部生は様式B
- (4) 研究および活動業績リスト
 - ・大学院生のみ
- (5) 学業成績証明書
 - ・在籍する（直近に在籍した）大学院（学部生は大学）のもの。
- (6) 身体障害者状況報告書と身体障害者手帳の写し
 - ・社会福祉奨学生のみ
- *備考
 - ・(1) (2) (3) (4) (6)は、所定の様式に従う。

IV 応募方法および締切り

応募者は、応募書類を在籍大学へ提出する。
大学は一括して2013年8月30日（金）（当日消印有効）までに、東京都ならびに本協会支部が設置されていない県の大学は本協会本部に、支部が設置されている道府県の大学は当該支部に応募書類を提出すること。

V 結果通知

選考結果は、本人・大学学長・推薦支部長に2013年11月末日までに通知する。

VI その他の留意事項

- (1) 一般奨学金、社会福祉奨学金、安井医学奨学金を授与された者は2015年3月31日までに本協会会長宛に「研究成果報告書」を提出すること。
- (2) 国内奨学金贈呈式は2014年1月の予定。（詳細は後日通知する）
- (3) 東日本大震災被災者は、その旨を履歴書・自己紹介書の該当欄に記載することができる。
- (4) 不明の点は当協会又は当該支部に照会のこと。

新入会員 理事会承認 2013年1月～7月

茨城支部	上月 仁美	東京支部	山田 朋美
茨城支部	鈴木 宣子	愛知支部	山中 郁子
東京支部	亀井 佑子	岡山支部	浅海 智子
東京支部	熊 成子	岡山支部	坪井 玲子

発行日 平成25年7月22日

発行人 阿部 幸子 編集責任者 端本 和子

発行所 〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101

一般社団法人 大学女性協会

電話 03-3358-2882 F A X 03-3358-2889

http://www.jauw.org E-mail: jauw@jauw.org